

天台宗

叡光山 佛乗院 安養寺 由緒

本山は比叡山延暦寺。正保（一六四六）・天明、両度の火災に遭い、詳しい資料は残っておりませんが、貞観元年（八五九）慈覚大師円仁さまにより開山されたと伝えられております。その後、中興開祖尊海僧正が勅命により永仁四年（一二九六）に再興し、明治維新前は武蔵総社大國魂神社社僧の管理をし、別当のような位置にありました。

寺格は徳川家康公より代々十五石の朱印境内除地（免税）を賜り、徳川幕府代々当山住職が江戸城賀正登城の折りには、色衣を着用し、乗興独礼をもって例としました。

明治十六年には世良田長樂寺の末寺を離れ延暦寺の直轄寺となり、中興より今日に至るまで三十八世と続いております。

平成十年（一九九八）に大改修成りました本堂は、幣串の記載から寛政元年（一七八九）に再建されたものであることがわかります。明治の初め、当山三十一世千葉亮泰師が手習い塾を開きますが、その後、成蹊学舎と至誠学舎が合併し府中学校となりました折には、仮校舎としても使用されるなど、庶民への教育普及の役割も担ってまいりました。

本堂中央には恵心僧都の作と伝わる本尊（秘仏）阿弥陀如来（三尊仏）、御前立の阿弥陀如来等が安置されております。右脇間には毘沙門天・吉祥天・善膩師童子を、左脇間には元三慈恵大師御影並びに不動明王また、府中市矢崎町にありました薬師堂の本尊薬師如来等をお祀りしております。

観音堂は明治四十四年（一八六八）の建立で、浅草寺観世音菩薩さまの御分体、並びに荼枳尼天・不動明王をお祀りし、多摩川三十三観音の第五番札所にもなっております。

山門は高麗門様式で棟札から天保四年（一八三三）に再建されたことがわかり、平成元年の解体復元工事により現在の姿になりました。

また、当山には狸にまつわる伝説があり、府中市教育委員会より「たぬきのお坊さま」という絵本が出版されております。

〒一八三－〇〇二七

東京都府中市本町一－七－一〇

電話（〇四二）三六一－二二四八

FAX（〇四二）三六一－三三八〇